

北方領土青少年洋上セミナー報告

7月27日(日)、第11回となる北方領土青少年洋上セミナーが開催されました。

参加者総数は118名で、このうちオホーツク管内から37名もの参加があり、後継者組織間の連携が着実に推進されているという成果が見られました。

事業内容は、羅臼町内のホテルを会場に羅臼町立羅臼小学校横澤英三校長による北方領土問題の講話に続き、北海道根室高等学校北方領土根室研究同好会による北方領土出前講座を行い、昼食後、羅臼港に移動して民間チャーター船3隻で洋上から国後島を視察しました。

横澤校長の講話の中では、北方領土問題を身近に感じてもらうため、日本人に馴染みの深い唄「蛍の光」で普段歌われることのない歌詞4番「千島の奥も沖縄も八洲^{やまと}の内のまもりなり」に込められた意味の解説や、国後島民2世が母の望郷の念を想い作詞した「ポンポン船で帰りたい」など音楽を聴かせながらの新しい試みが行われました。また、根室高校生の北方領土出前講座では、署名活動や四島ロシア人青少年との交流、大学生とのディスカッション、全国各地での出前講座、各種返還運動大会での決意表明や弁論発表、三世代交流、地元中学生との交流、総合学習での発表等々、日頃の活動風景を映像で紹介していただきました。

洋上視察では、残念ながら濃い霧に阻まれ島影をうっすらとしか臨むことはできませんでしたが、時折姿を現したクジラやイルカに青少年たちが歓声を上げていました。



山谷副知事からの挨拶



高校生による出前講座



横澤校長による北方領土のお話



参加者集合写真